

6月9日 逍遙



突然ながら、今年の新型コロナウイルスのような感染症の歴史を辿ってみると、日本では、安政の大獄の頃の1858年、鎖国政策下、限られた貿易の窓口だった長崎に上海から「コレラ」が侵入し、九州、上方、東海道筋へと拡大、江戸でも大流行、とされているようです。また世界的には、約百年前の1918年、米国で3月に発生したとされる「スペイン風邪」が、第一次世界大戦に伴う兵士の移動等により、欧州にも広がり全世界に蔓延、日本でも10月頃から大流行したようです。ただし、むしろその翌年10月頃からの「再燃」の方が死亡率は格段に高かった（ウイルス変異が原因か）ようですが。

感染症のパンデミック（世界的大流行）が人類の歴史に及ぼした影響は、旧体制の終焉と新勢力の台頭、そして新しい文化や価値観の創生でした。今回も、もはや以前のような姿に戻ることはなく、むしろ「コロナと共存」しながら、新しい生活・行動様式、社会システム、就業構造、産業形態等へと変化せざるを得ないのでは？

まさに幕末・明治維新时期と同じですね。

次回「ホントは怖い食事会、のころ」

「元には戻れない不安
そして希望、のころ」